

# 2012年度 水資源・環境学会 夏季現地研究会 「川辺川ダム計画中止を見通した五木村の再生計画」報告

伊藤 達也(法政大学 文学部)

2012年度の夏季現地研究会を8月24日から26日にかけて実施した。参加者は12名。例年に比べて少ない印象はあるが、大変充実した見学会となった。以下で簡単に内容を紹介したい。

8月24日(金) 13:00鹿児島空港集合ー曾木の滝ー人吉城跡ー青井阿蘇神社ー五木村到着ー五木村村民と懇談会(五木交流センター「夢唄」にて)

8月24日13時、鹿児島空港に集合した一行は、五木村村会議員早田吉臣氏の出迎えを受け、さっそくバスに乗り込んで目的地に向かった。最初の目的地は曾木の滝。曾木の滝は鹿児島県伊佐市の川内川上流に位置する滝で、落差は12mだが、滝幅が210mと広く、「東洋のナイアガラ」と称されている(写真1)。周辺は曾木の滝公園として整備され、のどかな風景を醸し出している。曾木の滝は本州方面の風景に見慣れている人たちにとって大変雄大な光景であり、参加者一同、感動に浸った。



写真1 曾木の滝

バスは曾木の滝を後にし、人吉市に入り、人吉城跡に到着する(写真2)。「夏草や 兵どもが 夢の跡」が似合う場所だ。私が訪れたのは二度目だが、静けさの中に歴史を感じさせてくれるとてもよい場所で気に入っている。次に訪問した青井阿蘇神社は今から1200年前に創建された。境内はとても穏やかな空間で、人々をほっとさせる。本殿、廊、幣殿、拝殿、楼門、五棟一連の御社殿は江戸時代はじ

めに造営され、2008(平成20)年6月9日に九州では55年ぶり、熊本県では初となる国宝に指定された。



写真2 人吉城跡

その後、人吉駅で集合の人たちをバスに乗せ、五木村へ向かった。今回の参加者のほとんどは初めての五木村訪問である。相良村から五木村の村境近くの川辺川ダム建設予定地(写真3)を見ながら、バスは五木村へ。五木村中心部の頭地地区は川辺川ダム建設に伴う水没予定地にあたる。既に集落移転は完了しており、水没予定地の側面に新たな集落が形成されている(写真4)。今回は頭地地区にある民宿にお世話になった。



写真3 川辺川ダム建設予定地



写真4 五木村中心（水没予定地）

五木村は熊本県球磨郡に属する。現在の人口は1,200人程度で、「五木の子守唄」発祥の地として有名であるが、近年は川辺川ダム建設によって村の中心地が水没することや、さらには川辺川ダム建設中止に伴う地域の動揺によって話題になっている。今回の見学会の目的もその点を確認することにあつた。24日夜と25日夜の2回、宿泊した民宿と道路を挟んだところにある五木交流センター「夢唄」で温泉につかり、その後レストランで夕食を取りながら、早田さんにご尽力いただき、村人を呼んでいただき懇談をした。五木村の方々は大変実直な方が多く、私たちのような突然の訪問者にも本当の誠実に対応いただいた。感謝の気持ちで一杯である。

川辺川ダム問題は現在、ますます複雑化していると言えよう。蒲島熊本県知事のダム計画中止宣言、民主党の政権獲得後のダム中止表明などなど。しかしそれにも拘わらず川辺川ダム計画は未だ中止に至っていない。一方、先日、政権が自民党に移ったことでの影響も懸念される。見学会で話題になったのは、ダム建設中止に伴う補償問題、地域活性化問題であった。民主党から自民党に政権が代わり、どのような展開になるか、関心は高い。

8月25日（土） 五木村内見学－五木村村民と懇談会（五木交流センター「夢唄」にて）

25日は一日五木村及びその周辺地域のエクスカージョンを行った。五木村のほとんどは山間地域である。一日バスを使つての移動はなかなか大変であつた。しかし、それ自体が五木村の現状を知る大変良い機会となつた。五木村村内では白滝公園（写真5）、宮園の大銀杏、頭地資料室「やませみ」等をめぐり、五木村の地域資源の豊かさを学んだ。

実は五木村に関わるダム計画は川辺川ダム計画の他に五木ダム計画がある。五木ダムは五木村上荒地地区に計画された重力式コンクリートダムで、洪水調節を目的とする。堤高61.0m、堤頂長132.0m、総貯水容量350万 $m^3$ 、有効貯水容量220万 $m^3$ で、事業主

体は熊本県である。川辺川ダム計画休止に伴い、五木ダムも中止された。五木村では計画中止に伴って治水水準の下がる地域の治水対策を重点的に検討している。私たちは五木ダム建設予定地、水害予定地をめぐりながら、複数のダム計画に揺れる五木村の表情を見た気がした。

五木村の上流に八代市泉町がある。泉町は川辺川の最上流地域に当たり、古くから平家の落人伝説等により、神秘的な魅力を伝える地域である。落人伝説は実は平家だけでなく、菅原家の伝説も伝わっており、菅原道真の子孫・左座（ぞうざ）家がこの地に入り、隠れ住んだと伝えられている（写真6）。



写真5 白滝公園



写真6 左座家

3年前、ダム計画の中止に揺れる五木村を訪ねて以来、五木村への訪問は今回で4回目となる。村は静かで、村人は穏やかである。しかし、その背後には川辺川ダム計画に揺れ続け、計画が休止された後も、なかなか中止に至らない問題、計画中止を前提とした地域補償問題、地域活性化問題等、問題は山積している。しかし、それでもこの3年間で少しずつだが変化の兆しが見えるところもある。例えば、3年前、道の駅子守唄の里五木物産館「山の幸」の土産物にはなかなか五木村原産のものが見当たらなかった。何回か通う中で、村内産の土産物が増え、また目立つようになった。3年前から元気だった山うに豆腐にもライバルが出現



したようだ。「五木萬彩」シリーズ等はとてもセンスの良いお土産に見える。個人的にはそうした地道な努力と経済振興が地域を支える一番の策に思われる。2日目の夜も村人を交えた懇談は盛り上がり、「山を買う」話ができただことは大収穫であった。

8月26日（日） 荒瀬ダム見学ー球磨川下ー15:00人吉駅解散ー16:00鹿児島空港解散

最終日の26日は朝、五木村を離れ、バスはひたすら荒瀬ダムを目指した。

荒瀬ダムは熊本県八代市坂本町にある球磨川に建設されたダムで、私たちが訪れた翌月から撤去工事が予定されていた（写真7）。堤高25mの重力式コンクリートダムで、水力発電を目的に1955年に完成した。ダム本体撤去が決定したのは2010年で、撤去に向けた工法、環境対策等の検討が「荒瀬ダム対策検討委員会」で進められてきた。



写真7 荒瀬ダム

午後は球磨川下りを予定していたが、当日、風が強く、予定していた急流下りが中止となり、人吉市内から出発する清流下りへの変更となった（写真8）。穏やかな流れに浮かぶ舟は日頃の喧騒を忘れさせてくれる最高の時間を提供してくれた。

全ての予定を終了し、バスは鹿児島空港に向かった。私は途中、人吉駅で学生と一緒にバスを降り、もう一日、予定していた水俣へ向かったが、他の人々もそれぞれ自らの目的を叶えるために行動したようだ。3日間を通じて早田吉臣氏には絶大なる協力をいただいた。感謝の念にたえない。



写真8 球磨川下り

